

波佐谷松岡寺と能美郡門徒

戦国時代の小松市域には、注目され

る真宗寺院として松岡寺があった。

室町時代、本願寺は北陸地方と深い

関係をもつようになっていった。加賀では十五世紀前半、石川郡に吉藤専光寺・宮腰仰西寺、河北郡に木越光徳寺といった寺院が創建され、本願寺第六代巧如（きょうにょ）の次男如乗（にょじよう）が河北郡の二俣坊を本泉寺と号するようになった。

文明三年（一四七二）に本願寺第八代蓮如（れんにょ）が越前吉崎（福井県あわら市）に坊舎を建立して布教を始めると、加賀においても本格的に本願寺の勢力が広がっていった。

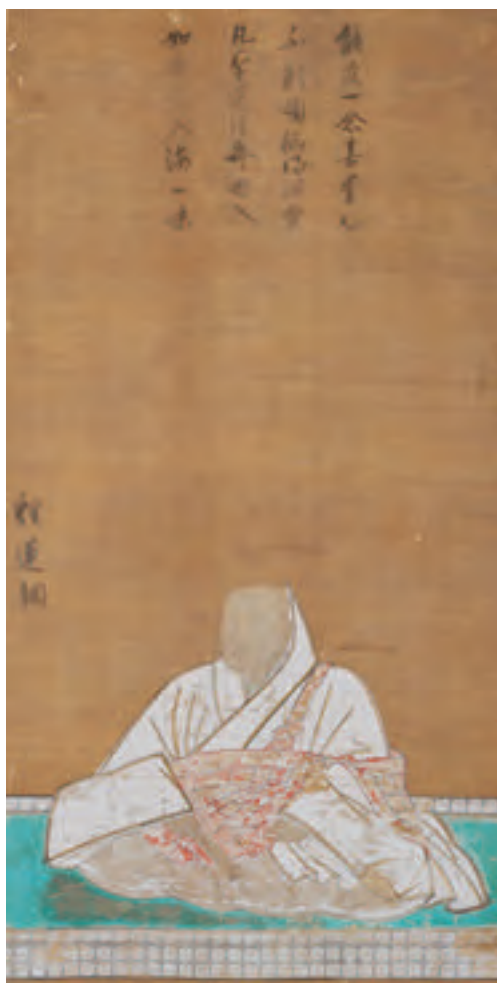
このようなか、蓮如の



小松市松岡町にある松岡寺跡(古名称は「ふるや」)



小松市波佐谷町にある松岡寺跡 手前峰続きに波佐谷城があった。



蓮綱影像(能登町 松岡寺所蔵)

三男北隣坊蓮綱(兼祐・一四五〇)〜一五三二)は、兄で二俣本泉寺の住持であった蓮乗(蓮如次男)に招かれて、能美郡池城(池城町)に坊を開き、次いで古屋(松岡町)に移り、さらに文明十年頃に波佐谷(波佐谷町)に移ったとされる。蓮綱は、古屋の地名を松の木が多いことにちなんで松岡と改称したことにより、その坊を「松岡寺」と称したという。

松岡寺蓮綱は、「波佐谷殿」「蓮谷殿」と称され、若松本泉寺蓮悟(蓮如七男)・山田光教寺蓮誓(蓮如四男)と

ともに「加州三カ寺」「三山の坊主」などと呼ばれ、本願寺門主の血統につながる一家衆寺院として、加賀における本願寺門徒の中心的立場にあった。

また、能美郡山内の鮎滝(白山市)に支坊を開くことにより能美郡における地位を確固たるものとし、能美郡の本願寺門徒を糾合していくこととなり、加賀一向一揆における能美郡一揆を先導するようになった。

松岡寺は、享祿四年(一五三二)の一揆(享祿の錯乱)で敗



能登町にある松岡寺

北して、蓮綱らは没したため中絶したが、蓮綱の孫実慶の子顕慶が能登国珠洲郡松波(能登町)の高福寺に入り、江戸時代になって松岡寺とされた。

(岡村喜史)